

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索



社会保障拡充に向け決意新たに

東京社保学校に230人参加

第39回東京社保学校は、7月15日(金)にせつプラザ東京で開催しました。過去最大となる38地域・24団体から230人が参加。竹崎会長の開会あいさつで始まり、二宮厚美神戸大学名誉教授の「新福祉国家VS新自由主義」、年金実務センター代表・公文昭夫さんの「権利としての社会保障の確立へ」、生存権裁判を支える全

つの講演を受けました。二宮講師は「新自由主義の総仕上げをものくろむ中で「脱原発」「NO! TTP」「消費税増税NO!」へ過半数の国民が声を上げていること「新福祉国家VS新自由主義」の対決が本格化する

国連絡会副会長・朝日健二さんの「生存権を守るためにこの今日的意義」の3

ると話しました。消費税が暮らしの貧困化に拍車をかけた事を明らかにし、消

費税導入前の所得税率や相続税率に戻せば日本の税収は(2面に続く)

国民の願いVS新自由主義の対決鮮明に



7・16 さよなら原発集会
全国から17万人が集まった

“消費税倍なら暮らして行けない”

怒りの声 国会に届けよう



7月14日、東京老後保障推進協会、年金者組合、安心年金つくる会、東京社保協の13人が「消費税増税反対・社会保障の改悪反対」の署名宣伝行動を行いました。

30度を超す暑さの中、おまいりや買い物にきた人たちは私たちの呼びかけに応え114人が署名してくれました。「今の民主党はウンばかり。あてにならない」「年金は減って消費税が倍になったら暮らせない」と怒りを語りながら署名してくれました。汗を流しながら交代で訴え、署名をする私たちの近くの屋台で山梨から来て桃の販売をしている男性が「がんばって！」とおいしい桃を10個差し入れてくれました。参議院で必ず廃案に！の決意が深まった行動でした。

いのちの危機!! そのうえ大増税!
社会保障大改革

社保1000万署名 国会に届けよう

現在 **31万5327筆**

巨額の内部留保を還元しろ!!

STOP! 社会保障大改悪 暮らしを守る

中央社会保障推進協議会

無料 国保・医療なんでも電話相談会

2012年8月26日(日) 午前10時~午後5時

0120-256-160

年金差し押さえられたらどうしたらいい?
医師、弁護士など専門家が相談にお答えします



医療費高くて病院行けない

3・11で改めて考える 東京の医療



高橋絃一日本福祉大学教授の講演に続いて、障がい者、保健師、訪問看護師、都立病院看護師、東京ルーで救急車を受け入れる病院職員が、それぞれの立場から現状と課題の提起を行いました。

7月21日、文京区民センターで「患者・都民の立場から実態を明らかにする」とパート2集会が開催され93人が参加しました。

現場からの報告は、それぞれ深刻な内容でありこれ以上に制度が改悪されると「いのちが危ない！」を実感させられました。高橋教授が提起された「対策の提案を！」に对应へる取り組みが急がれることを実感させられた集会でした。



朝日健二さん



公文昭夫さん



二宮厚美さん

「1面から」確保できることを強調しました。公文講師は、「皆保険、皆年金」を作り上げたのは、春闘のスタートと朝日訴訟のたたかいは通して中央社保協が結成されたことを教訓として紹介。これからの運動の視点として「憲法9条・25条を合わせてたたかう」「生活と労働の場からの要求と運動づくり」「税制と地方自治、財源をめぐる世論づくり」「運動の推

参加者の感想から

- ◎ 素晴らしい内容で現在の活動の大切な糧となったと思います。保健協の運動、地域の運動に役立たせたい。
- ◎ 福祉国家への転換が本当に必要だと痛感した。一体改革、原発、TPPのたたかいは幅広く連帯できれば可能だの確信を深めました。
- ◎ 久しぶりに二宮氏の御講義を拝聴させてい

進役としての労働組合運動」を強調しました。朝日講師は、朝日訴訟を養子として引き継いだ決意を語りつつ、生活保護バッシングは、朝日訴訟「前夜」を感じさせる自殺数などを紹介しました。生活保護基準の算定、境界層減免申請など制度の活用について豊富な資料とともに説明しました。社会保障財源は、能力に応じた税と社会保険料の負担によるものであり、財源問題を学ぶのがポイントである、と強調しました。



たきました。多面的な課題をわかりやすく話されて今後の諸活動に活かしていきたいと思えます。◎ 『税制を90年代に戻す』はともいいます。俵の上で考えさせられてしまっています。新しい税制を対置せねばならないと思っていたので『眼からウロコ』でした。◎ 『福祉国家か新自由主義か』の対決戦にある事がよくわかりました。『一体改革』を参議院で廃案にするため、地域で運動を広げる決意を固める、とつてもいいお話でした。

地域社保協

学習会、相談活動など旺盛に展開

医療、住宅など17件の相談



6月27日、6回目の相談活動が寄せられました。10団体20人が要員・相談員として参加しました。

「いのち・暮らし・モヤイ像の前で大きな紙袋3つを抱えて佇

雇用無料なんでも相談会」を渋谷駅前で開催し、暮らし、年金、医療・介護、住宅、生保など多様な相談17件が

「1週間前まで建築現場で働き、その寮にいた71歳の男性は度だけ。とても寮費が払えず退寮した。所持金はゼロ、生保申請したいが窓口も分からず、門前払いだろうと途方にくれていた」と。早速大井相談員が同行し、田中まさや区議の待つ福祉事務所に向かいま

「たいへんだけども区役所の開いている時間に相談会を実施してよかったです」と福井会長が話します。

東村山 第12回相談会を開催

でかなり充実した相談活動になりました。一枚のビラを頼り

12回目の相談会が6月23日(土)午後市民センターにおいて開かれました。開所の準備途中に既に相談者が訪れてきました。相談される方にとっては、どんなにか待ち通しい時間なのでしょう。当日は2人の弁護士さんにもきていただき、座る間もなく早速、弁護士さんへの相談が始まりました。相談者は5人でしたが、法律上のこともあり、弁護士さんがいらっしやること

に、訪れる方々にお会いするたびに、少しでも市民の困りに役にたっていることが誇りに思われます。

困っている方にとっては、市の窓口の敷居が高く見え、なかなか足を踏み出せずになります。ちよっとした援助で生活が変わるのです。行政に結びつけ市民生活がより良い方向へ向うためにも、相談活動の果たす役割があると、思います。(東村山 社保協・黒田せつ子)

代々木病院玄間総師長は渋谷での相談会は初デビュー。安井MSWと一緒に年金問題や借地の問題など様々な相談ごとに耳を傾けました。

高齢者には血圧測定を行い、健康チェックもかかしま

(2面から)

◎ 歴史的な流れがわかりやすく話され、特に社会保障の拡充が反戦・平和を守る課題と密接不可分だということが歴史的にも明らかであることがよくわかりました。

◎ 3つのテーマがそれぞれ密接に関連したもので、時宜を得た大変役に立つ学習会でした。

◎ 今日は参加してとても良かったです。青森から参加しました。あすは10万人集会に参加して帰りま

◎ 「人間に値する生存」を経済活動優先の立場で解釈し、受給者に対する厳しい世論作りも行われています。あらためて生存権を守る闘いが重要だと感じました。

◎ 生保バッシングを背景とした生保申請受理拒否や法原則から外れた審査が横行する可能性がある。自治体や福祉事務所に交渉するような行動提起をしてほしい。

◎ 改めて歴史と教訓を聴き、自分が歩んでいる道は間違っていないなかったし、自信が持てました。朝日健二氏の誠実な話し方、生活保護の説明は良かった。想像はしていましたが、参加者が多くて驚きました。

◎ 戦後からの社会保障制度がどう進展したか、また、その中で社保協の役割が良く分かった。過去の労働運動の成果など私が生まれる前の出来事を知り、正直驚くばかりでした。

高架上にいくつもの段ボールハウスがあるのはびっくりしていました。(事務局長・新井潔)

せん。今年代々木病院医事課に入職した福岡出身のA君はマイクデビューです。渋谷ヒカリエから歩いて2分の

都会の孤独死をどう防ぐか

どう支えるかが大切と問題提起しました。

中野社保協は6月27日、講演会「どう防ぐ、都会の孤立死」を開き、104人が参加しました。講師は「権利としての生活保護法」の著者である森川清弁護士。1996年に起きた池袋母子餓死事件を受け、豊島区が積極的な保護行政を進めると表明したことと対比し、保護申請を「押し売り」しないと云う札幌市などに見られる消極性を指摘、生活保護で困窮者を死から救う根本的姿勢がないと批判しました。

その上で①「助けて」といえる社会・保護行政を作る、②自治体内部の連携で困窮者を把握し、自治体が直接会い解決する、③介護者が倒れ、認知症や障害をもつ方も亡くなる事例が増え、介護者を介



講演する森川清弁護士

中野区生活援護担当副理事の伊藤政子さんが特別発言。中野区では2008年の世界的金融危機後に保護世帯数が激増、特に「収入・手持ち金等の減少」を理由に30・40代など稼働年齢層の保護が増えていると紹介しました。

(事務局長・塚本晴彦)

品川社保協では、毎年、6月〜7月の時期には、学習会を行っています。今年も、日本の農業に大打撃を与えるだけでなく、国民生活に幅広く影響するという「TPP問題」の学習会を7月9日に行いました。

当日は、11団体、34人の方が参加し、講師の東京社保協・寺川慎二事務局次長の話を中心に聞きました。寺川さんは、4カ国で始まったTPPの目的を説明、現在の問題は米国と日本の関係であること、食品添加物・遺伝子組み換え食品の制限

TPP問題で学習会開催

品川

緩和、保険市場開放、営利企業の病院参入、混合診療の解禁による皆保険制度の崩壊、輸入食品の検疫・検査体制の崩壊、公共事業への米企業参入などさまざまな問題点をわかりやすくまとめて話していただきました。

参加者からは、「日本の財界が、なぜ、TPPを推進するのかからない」「米国だけは、TPPより国内法を優先できないのか、それはひどい医療などをはじめとして、国民にとって安全・安心感が大きく失われてしまうことになる」などの質問、意見が出されました。(事務局長・阿部隆司)

中野区で葬儀社を営む桃田数重さんは、弁当箱のゴミ山の中でミイラ化した発見された高齢者など地域の孤独死に立ち会った経験から、生活を知るために部屋まで入ること、本人と話す「触れ合い」の時間を多く作ることが大切だと発言しました。

講演会後の総会では国保料値上げ反対など運動と体制を確認しました。



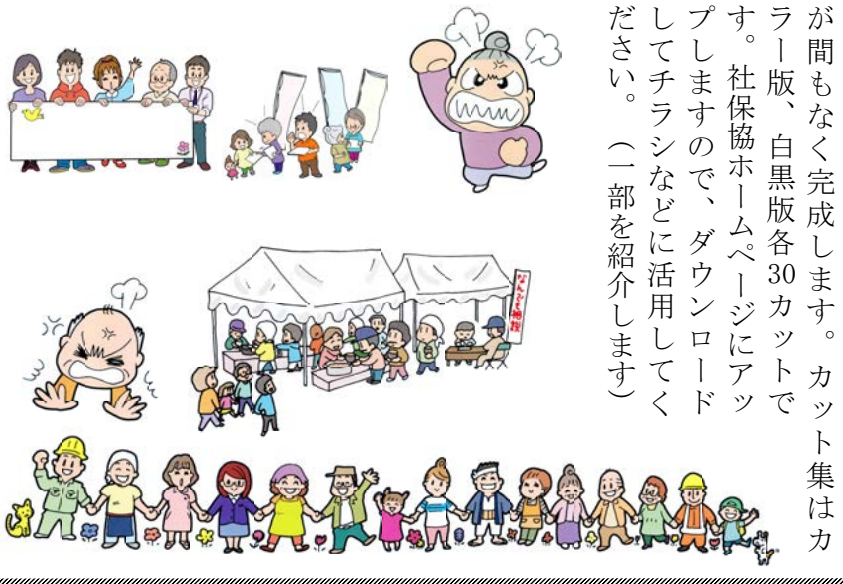
葛飾5駅頭でいっせい宣伝

葛飾社保協は、7月23日に区内5駅頭でいっせい宣伝を実施。参加者140人、チラシ・テッシュを8,000枚配り、社会保障切り捨て、消費税増税反対を訴えました。

完成間近!

東京社保協 オリジナルカット集

8月上旬に「東京社保協ホームページ」にアップします



東京社保協作成のオリジナルカット集が間もなく完成します。カット集はカラー版、白黒版各30カットです。社保協ホームページにアップしますので、ダウンロードしてチラシなどに活用してください。(一部を紹介します)